

ちどり

vol.54

OCTOBER 2023



R5.10.12 新型インフルエンザ受入訓練の様子

COVID感染症5類移行後の当院の診療体制

特集1 救急科紹介 特集2 初診紹介予約制導入について

Contents

- 紹介受診重点医療機関の指定について ■ 看護師特定行為入講式 ■ グループ担当理事着任に伴う病院訪問 (初度) について
- 外科診療科紹介 ■ チーム医療：感染制御チーム (ICT) ■ おすすめスポット：リハビリテーション科



病院の基本理念

「患者よし、職員よし、病院よし」

病院の運営方針

- ・ 病む人の人権を尊重し良心的な質の高い医療を提供します
- ・ 安全で心温まる医療を提供します
- ・ 臨床研究を推進し医学・医療の進歩に貢献します
- ・ 教育研修を通して人材育成に努めます
- ・ 新しい医療情報を発信し地域医療の発展に貢献します
- ・ 職員が一体となり健全な病院経営に努めます

COVID感染症 5類移行後の 当院の診療体制



統括診療部長
大越 恵一郎

2019年に中国で報告された未知の感染症は2020年以降わが国でも猛威を振るい、COVID19と呼ばれて2020年2月1日に指定感染症2類相当となりました。その後多数の入院患者が発生し、重症化する症例も多く何度も医療崩壊といわれる事態に陥りました。現在は感染予防策、ワクチンの普及、COVIDウィルス自体の変異により徐々に重症化の率は減り、軽症者から中等症の患者が増え、さらに治療薬も開発され徐々に落ち着きを取り戻してきていますが、未だウィルスの感染力は強く、周期的に感染の波を繰り返しています。

さて2023年5月8日よりCOVID感染症は5類指定となりました。そこでこれを機会に当院では今までの経験を踏まえCOVID感染症に対する対応を変更することとしました。

まず特に問題となった医療崩壊の原因として以下を考えました。

- 1.一部の医療機関に入院患者が集中し一般診療を圧迫。また隔離期間が終わっても転院ができず病床がひっ迫した。
- 2.院内のクラスター発生により病棟閉鎖などを余儀なくされ、さらに一般診療を圧迫した。
- 3.職員の発症や濃厚接触者になったなどの理由で休職者が増えマンパワーが確保できない状態になった。

そのため当院としては以下のように対策を変更しました。

- 1.当院は合併症のある、あるいは中等度以上の症状のある患者のみを入院適応とし、それ以外の方は自宅療養や近隣施設での対処をお願いした。また隔離期間を終えた方については積極的に近隣施設や病院に対して転院受け入れをお願いした。
- 2.院内の感染状況を把握し速やかに有症状者に対し検査を施行。陽性が確認されたら感染症病棟に移し、その接触者はそれまでの病床で健康観察を徹底した。
- 3.感染職員の休職期間を最短で従来の10日から5日に短縮し、職場復帰後は周囲への感染に注意し、仕事を選んで復職するようにした。また感染者の接触者に対しては無症状であれば緊密に健康観察しつつ就業可能とした。

結果として5月から9月上旬まで福岡県でCOVID感染フェーズ5になるなど再燃傾向を示したにもかかわらず、院内での発生は主に市中感染に起因する散発性のもので、院内の大きなクラスターはなく、5月から9月現在でもクラスター発生や職員のマンパワー不足による病棟閉鎖などの診療制限は起きませんでした。

9月には当院でのCOVID関連入院もPeakを超えており現在のところこの対策変更は医療崩壊予防に対して成功していると思っています。また近隣施設が軽症例の診療を行っていただいていること、急性期治療後の患者を積極的に受け入れていただいていることも当院の効率的な病床運用につながっているものと考えています。この難局を克服するために今後とも近隣の施設、医療機関の皆様のご協力を是非よろしくお願い致しますと思っています。

特集1 Activities Introduction

診療科のご紹介 救急科

メンバー紹介

救命救急センター長：保田 宗紀（併）
副センター長：李 守永（併）
医長：平湯 恒久
医員：伊勢 将大
診療看護師：中光 淳一郎、前川 志帆
非常勤医師：吉田 智博、
梶山 翼（久留米大学より）

当科の特徴・取り扱い疾患

救命救急センター（三次救急）としての重篤患者（心肺停止、多発外傷、心筋梗塞、重症脳卒中、重症呼吸不全など）の受け入れのみならず、地域から求められる全ての救急搬送（二次救急）にも対応していきます。

2022年救急搬送患者データ

救急搬送件数 3,690 件

うち入院 2,189 件（59.3%）

入院患者の内訳

内科系 1,372 件（脳内 294 件、消化器内科 263 件、呼吸器内 259 件、感染症内 259 件、循環器内 201 件 他 96 件）

外科系 530 件（整形外科 266 件、脳外 83 件、他 181 件）小児科 88 件、救急科 199 件



地域の先生方へ

2023 年 8 月より久留米大学病院高度救命救急センターより専従医として 2 名が赴任しました。福岡県内に救命救急センターは 10 病院しかなく、当院はその 1 つであり地域の健康と安全を守る使命を担っており、急患の受け入れから診療、治療、ケアまでの全ての段階で最善を尽くします。患者さんとそのご家族にとって最適な医療を提供するために、専門的な知識と経験を活かし努力していきます。地域の医療関係者の皆様との連携を大切に、緊急の状況においても円滑な情報共有と連携を実現するため努力してまいります。地域全体で安全かつ迅速な救急医療を提供できるよう、協力体制を築いてまいりますので、何かご質問や協力の必要があれば、どうぞお気軽にご連絡ください。

就任のごあいさつ

今回、新たに
福岡東医療センターへ配属された
先生方をご紹介します

氏名 ひらゆ のぶひさ
平湯 恒久
職名 救急科医長
所属学会 日本救急医学会
日本集中治療医学会
日本外傷学会



8月より当院に赴任して参りました救急科の平湯です。専門は、救急・集中治療です。地域に貢献できるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

氏名 いせ まさひろ
伊勢 将大
職名 救急科専攻医
所属学会 日本救急医学会
日本集中治療医学会
日本外傷学会



8月より当院に赴任して参りました救急科の伊勢でございます。まだまだ未熟者ですが、患者様のお役に立てるよう精一杯がんばりますのでよろしくお願いいたします。

初診紹介予約制導入について

当院では、受付・診療待ち時間短縮を目的として、一部診療科（整形外科、循環器内科、外科・血管外科、皮膚科、脳神経内科）におきまして紹介受診の全予約制を導入予定（対象診療科については順次拡大）としております。予約制導入後該当科においては**原則予約患者のみの診療**となります。

なお、**緊急を要する場合はこの限りではありません**。いつでも対応いたします。

「2023年11月1日より、6診療科で運用開始します。」

紹介予約受付時間 平日 9:00～16:00

紹介予約専用 TEL:0120-057-220 FAX:092-405-7597

ステップ1

紹介予約申込、承ります

FAX（電話での先行仮予約可能）、
またはアプリ【C@RNA Connect】によりご紹介下さい。

ステップ2

予約日時決定後、 予約票をFAXにて返信致します

アプリ【C@RNA Connect】の場合はリアルタイムに予約が取得できます。
予約取得後、予約票を発行して下さい。

ステップ3

予約票と紹介状を患者さんへお渡しし、
予約日時に来院するようお伝え下さい。

- 1 専用の書式（紹介状兼診療情報提供書）を当院 HP からダウンロードし、必要事項をご記入いただき、FAX で送信して下さい。
専用の書式を準備してはございますが、貴院所定の書式での送付も可能です。
- 2 アプリ【C@RNA Connect】のインストールを希望される場合は
地域医療連携室までご連絡下さい。

独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター 担当部署：地域医療連携室
事前予約の受付時間：9:00～16:00

感染制御チーム(ICT)は医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務員から構成され、患者さん、ご家族、来訪者、職員等、病院に関わるすべての人々を感染から守るために多職種で連携し活動をしています。主に、感染制御チーム(ICT)活動と抗菌薬適正使用支援チーム(AST)活動を行っており、週に2回、チームでラウンドを行っています。

当院には、感染管理認定看護師(ICN)が4名、様々な感染症に対する専門診療部門である感染症内科医が3名在籍しています。日々発生する問題に迅速な対応が出来るように、今年度よりICN2名の専従体制にしました。専従ICNは、感染管理における業務を専門的な視点から行っており、感染症が発生した場合、現場へ出向いて現状調査や病棟スタッフと共に感染対策を検討・介入を行っています。感染症病棟の有資格師長は、現場で个人防护具の着脱など感染対策を確認しながら、即時に指導を行っています。



チームカンファレンスの様子

ます。COVID-19流行時には、感染症病棟の看護師だけでなく、その他の病棟から看護師が派遣され、院内全体で協力して患者対応をしました。今年度は、感染症指定医療機関として、第1類・2類感染症患者を想定した受け入れ訓練を再開する予定です。

COVID-19が5類に移行後、重症心身障害児(者)病棟で、COVID-19の罹患が判明しました。当院では、COVID-19患者は、感染症の専用病棟へ移動し治療を行っていますが、感染症病棟に転棟することで、環境の変化から食事摂取量が減少したり、患者のQOLの低下に繋がる可能性が考えられました。そこで、小児科医、看護部、ICTでカンファレンスを行い、当該病棟で感染対策を実施しながら治療を行い、2次感染者を出すことなく終息しました。

これからも、安全・安心した環境で医療が提供できるように、感染制御チーム全体で取り組んで参ります。



重症心身障害児(者)病棟でのカンファレンスの様子



地域医療
連携室だより

Topics 総合支援センタートピックス

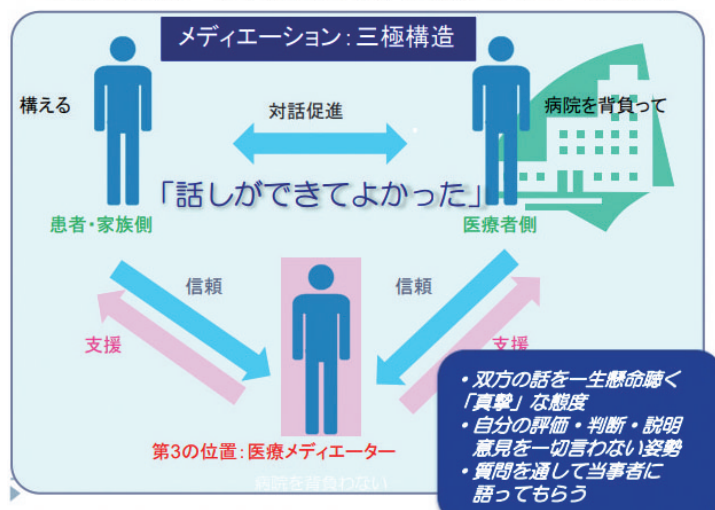
「臨床腫瘍カンファレス」の報告と 「入院時重症患者対応メディエーター」を紹介します。

地域がん診療連携拠点病院として、年2回ご案内していますが、今回は「患者・家族との合意形成に向けたコミュニケーションの極意~ナラティブ・アプローチ~」をテーマに、日本医療メディエーター協会認定シニアトレーナーの東幸代先生に鹿児島から来福していただきご講演頂きました。

講演では、「ナラティブアプローチ」「コンフリクトマネジメント」について学び、相手の本当の想いを語ってもらうこと、相手の想いを解ろうとする姿勢で対話することの大切さを伺いました。また、医療メディエーターの役割についてもお話され、患者・家族と医療者との対話を促し、本当の想いを探り寄り添っていく必要性を改めて感じさせられました。急性期病院では、厳しい病状を説明されることや意思決定を短

時間で行うことを求められることが多々あります。患者・家族が情報や知識が不足している中で意思決定しなければならないのは、大変な苦痛です。職員は、患者・家族の想いを傾聴し、寄り添える医療を他職種で協働しながら実践していかなければならないと痛感しました。

「コンフリクト・マネジメント」と「医療メディエーション」



入院時重症患者対応 メディエーターが誕生しました。

2023年1月に入院時重症患者対応メディエーター研修を修了した看護師が誕生しました。

主に救急搬送された重症患者の病状説明に同席もしくは内容を確認し、患者・家族の不安を傾聴しながら、分からないこと、医師に聞きたくても聞きづらいことなどを確認しています。その内容を医療者で情報共有しながら、不安の軽減や情報提供、意思決定の支援を実践しています。メディエーターとして、お互いの理解が進むように、対話が促進されるように活動しています。



入院時重症患者対応
メディエーター

児玉 奈津江

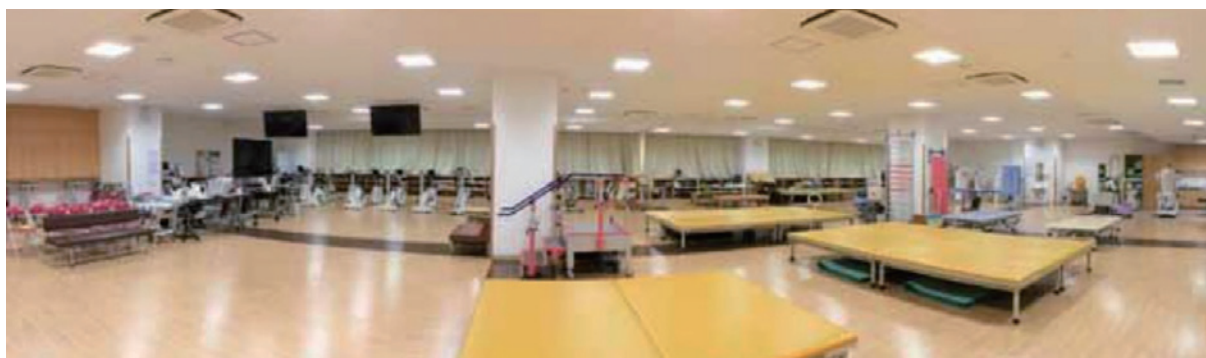
当院の

おすすめスポット



リハビリテーション科のご紹介

主任作業療法士 大黒 陽蔵



当院のリハビリテーション科は、様々な疾患に対する急性期のリハビリを提供できるよう、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、計21名で構成されています。地域・社会への早期復帰の援助を出来るように、リハビリテーション室には多くのリハビリ器材が用意されており、日々患者さんとリハビリに取り組んでいます。



各病棟での歩行練習の際に病棟内廊下から見える景色は、患者さんにとって親しみのある山や風景で休憩場所として最適な場所となっています。他にも病院の裏側には、小さな庭園もあり密かな楽しめる場所もあります。



当院では自宅の環境に合わせたADL動作（日常生活動作）の指導を専用の器材を使用して行うことも出来ます。



【紹介受診重点医療機関に指定されました】

当院は令和5年8月1日より「紹介受診重点医療機関」となりました。

「紹介受診重点医療機関」とは国の制度見直しにより新設されたもので、外来機能の明確化・連携を強化し、患者の流れの円滑化を図るため、医療資源を重点的に活用する外来の機能（重点外来）に着目して、紹介患者への外来を基本とする医療機関を明確化することを目的としています。

重点外来は手術や化学療法等を必要とする外来、放射線治療等の高度な医療機器・設備を必要とする外来等で、初診・再診に対して一定以上の割合を占めることが要件として求められています。

当院は既に地域医療支援病院に指定されているので大きな変更はございませんが、初診紹介予約を導入し紹介いただいた患者さんの待ち時間短縮・症状が安定した患者さんの逆紹介の更なる強化など、より一層地域の先生方との連携を図って参ります。

始まります。
紹介受診重点医療機関。

それは、かかりつけ医などからの紹介状を持って
受診いただくことに重点をおいた医療機関です。

- ・手術・処置や化学療法等を必要とする外来、放射線治療等の高額な医療機器・設備を必要とする外来などを行っています。
- ・紹介状のありなしに関わらず、受診は可能ですが、紹介状がなく来院された場合は、一部負担金（3割負担等）とは別の「特別の料金」が原則必要となります。

2023年新制度スタート

令和5年8月版

少しずつ広がる特定行為

看護師特定行為研修担当 児玉 由美子



福岡東医療センターの看護師特定行為研修は、救急パッケージ（全員必須）と胸腔ドレーン管理関連が選択で受講できます。今年3年目を迎え、7名の修了生を出し院外でも活躍しています。定員は4名ですが今年は11名の応募がありとても驚きました。選考試験の面接では、まだ特定行為は導入していないという施設が多く、特定行為への関心が高まっている兆しを感じました。当院でも一人でも多くの研修生を出したいという思いはありました

が、実習での症例確保の関係でやはり今年も4名の研修生（院外2名、院内2名）を受け入れることになりました。研修が始まると施設も経験も違う方との交流やディスカッションは活発で学びの共有と共にとても刺激となり、学ぶ楽しさを感じているのがはっきりと判ります。また、修了生もメンターとして演習の

指導や相談役としてサポートして頂き、研修生の不安や疑問点の解消ができ、とても心強く感じております。現在、共通科目・区分別科目のeラーニングが終了し、OSCE（技術試験）を経て、実習に出ています。実習では5例以上の症例の経験が必要です。講義や演習で学んだ知識を統合し、医師に指導を受けながら手順書を元に特定行為を実施します。まだまだ、経験が浅く不安な気持ちで臨んでいます。学んだことを生かせるようサポートしていきたいと思っています。

さて、当院では現在7名の特定看護師（当院呼称）が在籍していますが、特定看護師の活動も少しずつ活発化し看護師の勉強会や特定行為の依頼件数も僅かながら伸びてきています。ただ、各行為時の医師との症例のディスカッションの時間が取れないことやまだ周知が足りないことが今の課題です。対策として、10月より毎月1例特定看護師と医師との協働の症例報告会を計画しています。

この症例報告会が定着し、特定看護師の認知度や効果が実感できることを期待しているところです。

施設に特定行為を導入するメリットは、やはり看護師のアセスメント力の向上ではないでしょうか。研修では、解剖生理やフィジカルアセスメントなどは勿論のこと、臨床推論や疾病・臨床病態概論など医師の診断過程を学びます。研修生は、初めて学ぶ臨床推論などにとても興味を示し熱心に勉強しています。この学習が特定行為を



するうえで欠かせないものであり、患者の状態をきちんとアセスメントし筋道を立てて判断することに繋がっています。研修生の学ぶ意欲と努力と成長は目を見張るものがあり、現場に戻った時に周りの看護師への影響や患者アセスメントに反映されるものと確信しています。また、すぐに成果

は出ませんが、医師の負担軽減へ繋がるものと思います。

今後、特定行為研修の運営における質の向上と、修了生が高度な臨床実践能力を発揮し、専門性を生かしたチーム医療のキーパーソンとして活躍できるように、組織として支援する体制を整えていきたいと思っています。

皆様のご支援を受けながらサポートしていきたいと思っていますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



グループ担当理事着任に伴う 病院訪問(初度)について

管理課長 麻生嶋 芳

令和5年8月31日に、九州グループ担当理事が病院の現状を確認するため、就任後初めて来院されました。

理事は、院内の現場を直接見て貴重な意見を聞き取り、病院幹部と様々な問題点や課題を話し合い、新しい視点での提案などを頂くことが出来ました。

特に注目されたのが、医師の働き方改革と投資の件についてでした。医師の働き方改革の1つとして、宿直許可の取得事例、また投資については、手術室の増設について活発な意見が交換されました。

今回受けましたアドバイスを参考に今後の病院経営に役立てていきたいと考えています。



福岡東医療センター 外科診療科 紹介

外科部長 内山 秀昭



図1 腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術の手術風景

外科は消化管外科、肝胆膵外科、乳腺外科、血管外科で構成されており、全員九州大学消化器・総合外科の医局より派遣されています。消化管外科の主な対象疾患は食道癌、食道裂孔ヘルニア、胃癌、腸閉塞、大腸癌、鼠径部ヘルニアです（肛門疾患は現在専門医がおらず専門クリニックに紹介しています）。2021年1月に新規の内視鏡手術システムを導入し、多くの症例で鏡視下手術を行っています（内視鏡外科学会技術認定医1名在籍）。肝胆膵外科の主な対象疾患は原発性・転移性肝癌、胆道癌、膵癌、胆嚢結石症、内臓動脈瘤です。肝胆膵外科においても肝切除、膵体尾部切除などで鏡視下手術症例が多

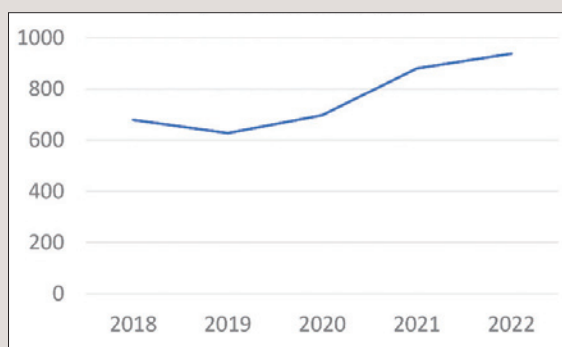


図2 年間総手術数の推移

くなっています（内視鏡外科学会技術認定医1名在籍）。当院は粕屋・宗像地区で唯一の肝胆膵外科学会高度技能医修練施設です（肝胆膵外科高度技能指導医1名、専門医1名在籍）。血行再建を伴う悪性腫瘍手術も積極的に行っています。乳腺外科は主に乳癌を対象疾患としています。乳腺専門医が1名在籍しガイドラインに沿った診療を展開しています。血管外科の主な対象疾患は腹部大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤です。日本心臓血管外科学会修練指導医が1名在籍しています。腹部大動脈から下腿の末梢動静脈と多岐に渡る診療内容をカバーしています（図1）。外科の手術症例は年々増加し、2022年には938例の手術を行いました（図2）。症例数の増加だけでなく、手術の安全性についても日々追求する努力をしています。

外科は2023年4月から交代勤務制を導入し、常に外科スタッフが病院に常駐することにしました。入院患者の状態変化や、外科系救急患者にも迅速に対応することができるようになりました。待機手術だけでなく、外科系急患にも24時間365日対応し、地域医療に貢献できるように努めさせていただきたいと思っています。

編集 後記

「病院は待たされるのが普通……」、これは過去の言葉になりつつあると思われます。情報社会が発達した今、インターネットやアプリでいろいろな予約が可能となっています。診療に関しても完全予約制を導入する病院がぼつりぼつりと出てきています。当院も令和5年11月1日から6つの診療科で完全予約制を導入することになりました。外科では院内コンサルテーションを今年7月から時間指定の完全予約制としました。それまではコンサルテーション、外来紹介の患者さんが朝一番に集中し、朝8時半に来院した患者さんの診療が午後になることが多々ありました。コンサルテーションの完全予約化により待ち時間は大幅に短縮されました。院外からの外来紹介も完全予約制になると、ほぼ予約時間とおりの診療が可能になると思われます。「お待たせしない診療」で、今回の「患者さん満足度調査」の点数が一気に上昇するのではないのでしょうか。期待されます。（内山記）

外来担当医一覧 令和5年10月1日現在 ※最新の担当医はホームページをご覧ください。https://fukuokae.hosp.go.jp/

受付
時間

- 1) 午前8時30分から午前11時00分まで。 ※予約の方は、指定された時間において下さい。
- 2) 土・日・祝祭日・年末年始は休診です。当院は救急告示病院です。救急の方は、診療時間外でも受付いたします。

診療科			月	火	水	木	金
内科新患（別紙参照）			当番医	当番医	当番医	当番医	当番医
脳神経内科	新患	田中 恵理	松岡 幹晃	芝原 友也	田中 恵理	黒田 淳哉	
	再来(脳血管内科)	松岡 幹晃	中根 博・山中圭	黒田 淳哉	芝原 友也	立花 正輝	
	再来(神経内科)	-	田中 恵理	田中 恵理	九大医師	-	
糖尿病	新患	野原 栄	-	二宮 和輝	担当医	堤 礼子	
	再来	堤 礼子・二宮和輝	-	野原 栄・堤 礼子	二宮 和輝	野原 栄	
血液内科	新患	-	担当医	担当医	-	担当医	
	再来	亀崎 健次郎	亀崎 健次郎	黒岩 三佳	-	黒岩三佳・坂本佳治	
消化器科 (消化管・肝臓)	肝	高尾 信一郎	多田 靖哉	黒川 美穂	多田靖哉・高尾信一郎	-	
	脾 胆	藤山 隆	大越 恵一郎	松尾 享	中村 由佳里	大越 恵一郎	
	消化管	藤井 宏行	中村和彦・將口佳久	平山 雅大	田中 宗浩	安部 周吉	
腎臓内科	新患	原 祥子	黒木 裕介	黒木 裕介	荒瀬 北斗	永井 涼人	
	再来	黒木 裕介	永井 涼人	堤 貴大	黒木裕介・永江洋	荒瀬 北斗	
循環器科	第一診察室	小池 明広	小池 明広	小池 明広	小池 明広	小池 明広	
	第二診察室	細谷 まるか	入江 圭	徐 理華	中村 洋文	升井 志保	
呼吸器科	新患	中野 貴子	中富 啓太	高田 昇平	吉見 通洋	山下 崇史	
	再来	中富 啓太	高田 昇平	吉見 通洋	高田 昇平	吉見 通洋	
		山下 崇史	山下 崇史	中野 貴子	今田 悠介	中富 啓太	
		木村 知代	萩原 拓貴	今田 悠介		中野 貴子	
感染症外来				肥山 和俊		肥山 和俊	
呼吸器外科			緑川 健介	瀧武 大輔	西野 菜々子	岩中 剛	瀧武 大輔
外科	消化器	内山 秀昭 谷口 大介	休診（急患対応可）	井口 友宏 佐々木 駿	休診（急患対応可）	内山 秀昭 小齊 侑希子	
	乳腺	内山 秀昭	休診（急患対応可）	休診（急患対応可）	石田 真弓	石田 真弓	
	血管	休診（急患対応可）	松本 拓也	松本 拓也	休診（急患対応可）	休診（急患対応可）	
整形外科	新患	中家 一寿	福元 真一	(手術日) 外来休診	松下 昌史	(手術日) 外来休診	
		松下 昌史	木下 英士		清水 大樹		
		岡本 重敏					
	再来	福元 真一	清水 大樹		中家 一寿		
	中尾 允哉		岡本 重敏 木下 英士				
脳神経外科	新患	保田 宗紀	保田宗紀・埜本僚太	(手術日)	保田 宗紀	松田 浩大	
	再来	保田宗紀・松田浩大	保田宗紀・松田浩大		保田宗紀・松田浩大	保田 宗紀	
皮膚科 (予約・紹介状をお持ちの方のみ)			中村 美沙 藤井 晴香	中村 美沙 藤井 晴香	中村 美沙 藤井 晴香	中村 美沙 藤井 晴香	
小児科	午前	一般	中原和恵・松尾光通・西間大祐	黒川麻里・松尾光通	中原和恵・松尾光通・黒川麻里	李 守永・西間大祐	中原和恵・増本夏子・松尾光通
		専門(予約)	増本 夏子		李 守永	山下文也・黒川麻里	吉元(第1・3・5)石倉(第2・4)
	午後	専門(予約)	李 守永・中原和恵	水野勇司・松尾光通	李 守永・中原和恵	増本 夏子	李 守永・中原和恵
			山下 文也	西間大祐(第1・3・5)	循環器(長友雄作)	山下 文也	小児神経(藤井史彦)
			石倉稔也(第1・3・5)	血液(江口克秀)	腎臓(末松真弥)(第4以外)		アレルギー新患
			吉元陽祐(第2・4)	アレルギー(第2・4)			〈喘息検査〉
放射線科	新患	月～金 渡辺 哲雄(※事前に必ず電話予約が必要です)					
	再来	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	
歯科口腔外科			吉田 将律 田尻 祐大	吉田 将律 田尻 祐大	吉田 将律 田尻 祐大	吉田 将律 田尻 祐大	(再来のみ)
婦人科	新患	内田 聡子	内田 聡子	内田 聡子	(手術日)	内田 聡子	
	再来	田中章子・上杉翔	田中章子・上杉翔	田中章子・上杉翔		田中章子・上杉翔	

*小児科の入院依頼は、病院代表 092-943-2331 から
入院依頼は入院担当医師(西間・黒川・山下_文)へ、受診依頼は一般外来医師へ、
夜間休日小児科当直へご連絡ください。

●物忘れ外来《特殊外来》完全予約制(内科外来 内247)【担当医 田中_恵】
『金曜日 9:00～10:00』
※予約受付は平日 月～金 13時～16時の間で TEL 予約

●緩和ケア外来 完全予約制(担当看護師 内8184)【担当医】
『火曜日・木曜日 午前中』

独立行政法人国立病院機構

福岡東医療センター

〒811-3195 福岡県古賀市千鳥1丁目1-1

HP <https://fukuokae.hosp.go.jp/>

TEL 092-943-2331

0120-212-454 (地域医療連携室)

FAX 0120-087-437